ニュース

石巻のすべての小学校に学用品を寄贈

全国学校用品㈱

日本生協連の関連会社である全国学校用品は、フードバンク団体のセカンドハーベスト・ジャパンの協力を得て、宮城県石巻市の各小学校に、お道具袋3、676点、水泳バッグ295点、軽量ランドセル29点を寄贈しました。

セカンドハーベスト・ジャパンは、食品製造メーカーや農家、個人などから提供を受け、まだ十分に食べることができるにもかかわらず、形が悪いなどといった理由で廃棄される予定の食品を、その食品を必要とする人びとに届ける活動をメインに行なっています。このたびは、全国学校用品の依頼を受け、学用品の寄贈が決まりました。

同社の鷲尾慈郎さんは、「学校は欠品が許されないマーケットであり、学用品の在庫はどうしても発生します。それを、被災地の方々になんとか役立てたいと考えました」と寄贈の経緯について話します。

学用品は、8月23日にセカンドハーベスト・ジャパン石巻事務所に届けられ、10月10日までに、石巻市内全39校に配布されました。石巻市教育委員会学校教育課・指導主事の村岡 太さんは、「被災地では各家庭も十分な余裕がないのが現状です。特に全校に行き渡る数量をいただいた『おどうぐ袋』は消耗品ですが、新しいものをなかなか準備できません。今回のご提供には本当に感謝しています。子どもたちもお揃いの新しいものを手にできて喜んでいます」と、寄贈へのお礼の言葉を述べていました。

水泳バッグ。

軽量ランドセル。

寄贈されたお道具袋を手に持つ、石巻市立和渕小学校の日野 峻教頭。

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

あいコープみやぎ・事業部　供給チーム
宮城野・若林・しおさい・石巻地区
エリアリーダー　庄子裕章

全国の生協の皆さんや家族、職場の仲間に支えられ、今、自分がここにこうしていられるのだと思います。

私は、震災当日、宅配の配送をしていました。自宅は多賀城市の内陸にあります。妻とは夕方ようやく連絡が取れて、無事を確認できましたが、海から1.5kmほど離れた実家にいた母や妹2人たちの安否が確認できませんでした。13日から避難所・病院回りを始めましたが、どこの名簿にも名前がありません。覚悟しないといけないと思いました。同時にここで自分が折れてはダメだと強く意識しました。早く見つけてあげたいと思い、家の周りを探すことにしました。夕方まで探し回り、暗くなったら遺体安置所に行って確認するという日々でした。

震災から約1週間後に一番下の妹が、続いていとこの子ども、そして約1カ月後に、母とすぐ下の妹が見つかりました。職場に復帰したのは4月末です。あいコープみやぎも大きな打撃を受ける中、仕事に行けないのはとても申し訳なかったのですが、自分にとっては家族を探してあげることが、そのとき一番やらなければならないことでした。職場の仲間はそんな自分のところへ電話をくれたり、おにぎりを届けてくれたりしました。組合員さんから子どものオムツをもらったこともあります。震災直後はパルシステムグループ※の皆さんが泊まり込みでこちらに来ていたので、あいコープみやぎは、連携して炊き出しや支援物資のお届けを行ないました。3月末から、避難所や待機所がなくなるまで、週2回、毎回10数人のチームで動きました。

あいコープみやぎは現在、石巻の地域サロンへの支援と、センターの近くにある仮設住宅への支援を中心に活動し、食材提供や家事支援などを行なっています。

宅配センター近くの仮設住宅には、同僚と餅つきを企画したことがきっかけで支援に入ることになりました。そこのお母さんたちが震災後みんなで集まって手芸品を作っているので、あいコープみやぎのイベント「Wa わぁ祭り」でバザーを開催して販売を応援しようと思っています。

一人ひとりが誰かに支えられて生きているのだと思います。もし自分がお世話になった人がこれから大変なことになったとき、自分が支えられるようになりたいと思います。

メッセージ全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO・OPアクション情報」バナーをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連　復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。

※　パルシステム連合会および同連合会の会員生協・関連会社。